

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 2 号	2001年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------------	--

1. 活動報告（事務局 塩谷 記）

5月26日にサギソウ・トキソウ・ホシクサ・ミズゴケ・カキラン・ノギラン・クワイ（アギナシ）・コウガイゼキショウ・フトイ・アゼスゲを植栽しました。

6月2日は湿地の大幅修正の作業をしました。湿地ゾーンがほぼ全面的に湿地となりました。カブトムシの家の骨格を作りました。

6月9日は池の排水マスに水漏れが発生し、観察道の下に空洞ができましたので、内藤工業所のユンボも参加し、復旧工事をしました。カブトムシの家の棟上げ。須賀河内川の刈ったヨシを切断し、天然の肥料にするため積み上げました。

6月16日は二俣瀬小学校の生徒と田植えを行いました。

2. 今後の予定（事務局 塩谷 記）

6月30日以降は全力で湿地ゾーンの植栽をし、国道に出す看板はすでに製作していますが、ビオトープ内に出す看板（全体図・注意事項・各ゾーンの詳細な説明）と、入口の秋吉建設前に出す看板（車での見学はご遠慮下さい・トイレは市民センターへ・駐車場は へ・徒歩3分）を作ります。

3. 里山ビオトープ二俣瀬への感想

川上小学校の生徒が5月17日に、里山ビオトープ二俣瀬を見学しましたが、学校より生徒の感想が寄せられました。

見学のお礼

謹啓 時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。さて、先日は本校児童の貴センター（里山ビオトープ二俣瀬）見学に際しまして、御多忙中にもかかわらず御懇切な御指導をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。おかげさまで、大変有意義な学習ができましたことに、職員・児童一同大変感謝しております。この貴重な経験を生かし、これからの学習に生かしていきたいと思っております。今後ともよろしく御指導くださいますようお願い申し上げます。まずは、略儀ながら書中をもちましてお礼といたします。 敬具 平成13年5月23日 宇部市立川上小学校 校長 長井 芳寛

5月17日に、社会見学で『里山ビオトープ二俣瀬』という所に行きました。この『里山ビオトープ二俣瀬』には、直径5メートルの大水車や、小川、池があって、あめんぼや、タニシなどの生き物がいます。大水車は、5メートルなので、わたしの3倍以上ありました。ゆっくり回っていて、水の音が、「ザー」と聞こえてきて、水しぶきがしました。川に入ると、石がごろごろしていて、はだして入ると、つるつるすべりそうでした。池の土は、ねちゃねちゃして、田んぼに入っているみたいでした。とっても楽しかったので、この写真（注書き：水車の周りに児童たち）がいいなと思いました。（4の3 上園 美澄 記）

5月17日に、社会見学の勉強で、里山ビオトープ二俣瀬に行きました。写っている（注書き：水車の周りに児童たち）のは、台風でたおれて、いらなくなった木を使って作られた、直径5mの水車です。あんなに大きな水車は、水のでゆっくりと回っていました。他にも、台風でたおれた木を使って作られていた物は、橋や、ベンチなど、いろいろありました。里山ビオトープは、生き物、植物が、生きていけるように、自然をととても大切にしていました。わたしは、自然はこんなに美しい物なのかと思っぴっくりしました。わたしが、里山ビオトープが心に残っているわけは、「自然を大切にしたい」と言う気持ちがよく分かったからです。わたしも、生き物、植物のために、自然を大切にすることに協力したいと思っております。（4の3 今手 麻衣 記）

4. ビオトープ関連(一口メモ)

私は植物の専門家でもありません。ただ植物大好き人間というだけで「里山ビオトープ二俣瀬」に参加させて戴き、自分自身の見識を高めたいと思って学習しています。拙い私が現在の「里山ビオトープ二俣瀬」で見つけた在来の、草本類は64種ですが、まだまだ沢山の植物があり土曜日毎に訪れてはメモ帳に書き加えております。（別に、樹木類は全て周辺地域から搬入中 現在22種）加えて、湿地湿原には近隣の土地から次々に植栽されており、4月14日以降新たに草本類25種の仲間が加わりました。中には、危惧品種のサギソウ、トキソウ（白花種も）、カキラン等、通常では目に入らない自生種が地元の会員の案内で5月26日に移植する事が出来ました。以後、これらの植栽種について、毎回少しずつ紹介していきたいと思っております。

<第一回> * キショウブ（アヤメ科アヤメ属）

半野生化し、あたかも自生に見えるが、明治時代に渡来帰化した植物。各地の水田、溝、池畔、湿地などの水辺で繁殖している。開花期は、5・6月に鮮黄色の菖蒲形の花を付ける。和名=黄菖蒲 園芸品種には斑入り葉や八重花等がある。「里山ビオトープ二俣瀬」では湿地の北西、板橋入り口付近に植栽している。

* コウホネ（スイレン科コウホネ属）

浅い池や沼などに生える多年草の水草。かつては、各地の溝、池沼で繁殖していたが近年は見当たらない。開花期は、6~9月に径4~5cmの黄色の花を1個上向きに付ける。和名=河骨（こうほね）根茎が白骨の見えることからこの名がついた。「里山ビオトープ二俣瀬」では、池の小島の南東と蓮田の西端の水中に植栽している。水上葉が長さ20~30cmの大形で長卵形（長ハート形）水から抜け出るので直ぐ判る。（北村 健治 記）

学校ビオトープ（ビオ）と従来の学校緑化（緑化）の違い（日本生態系協会の資料より）

[樹木]	ビオ：地域の自然にある種類を大切にする	緑化：園芸種や外国・他地域産の種類が多い
[野草]	ビオ：小動物のすみかや餌として非常に大切	緑化：「雑草」として排除（草むしり）

[植物の植え方] ビオ：自然の林や原っぱを復元する 緑化：並木状・庭園状で、定期的に剪定する
 [落ち葉] ビオ：自然のままや堆肥にリサイクルする 緑化：掃き集めて焼却、二酸化炭素が増える
 [表土] ビオ：野草や落ち葉に被われ、柔らかで養分や土の中の生き物が豊か
 緑化：剥き出して固く乾燥し、土の中の養分や生き物も少ない
 [池] ビオ：水草が生え、深さや形も変化に富む 緑化：コンクリート製 生き物がすめない
 [生き物] ビオ：多くの種類の生き物が生活している 緑化：植物の種類が単純でアメリカシロヒトリやチャドクガなどが発生しやすい
 [環境教育] ビオ：生きた教材として、さまざまな活用ができる 緑化：子供たちの興味を引くものが少ない
 [自然保護] ビオ：学校のビオトープ化は、自然豊かな街づくりのネットワーク拠点となる
 緑化：大人に多少のやすらぎを与える程度

5. ビオトープ関連(参考図書-2)

信山社サイテックから下記の自然復元特集の図書が発行されています。

- ・ホタルの里づくり (2800¥)
- ・魚から見た水環境 (2800¥)
- ・農村ビオトープ (2800¥)
- ・ビオトープ - 復元と創造 (2800¥)
- ・淡水生物の保全生態学 (2800¥)
- ・水辺ビオトープ (2800¥)
- ・学校ビオトープの展開 (2800¥)

6. 会員の声

“えんぼとたんぼ” 吉富壮介 記

看板のつけから「えんぼとたんぼの始発駅」あれ、何かの？と聞かれます。「えんぼ」とは遠方のこと「友あり、遠方より来たる。また愉しからずや」の「えんぼ」。「たんぼ」とは窪地、水溜り、池まどを言う方言。語呂あわせしたもので、てんで意味がちがう言葉です。似たようなものに、ヨーロッパと広っぱ、月とスッポンなどがあります。この「えんぼとたんぼ」どう転んだものか会長がえらく気に入って、ビオトープに名前をつけようというときに、早速「えんぼとたんぼ」を出しました。ま、会長も二俣瀬のインディアンです。里心をくすぐる方言に、心あたまるものを感じたとしても、不思議はないでしょう。では、何で「えんぼ」か！ ビオトープにとり組み、現地で作業はじめて、田が池になり、山になり、しがらを組み橋が出来、日ましに変る様をみて「何ができますか？」地元から聞かれます。たいへんな物が出来るらしい、何じゃろう。川向こうの人までが「何ごとかの？」まるで遠方の話です。ま、名称もわるい。ビオトープなんて聞いたこともない。知らなくても七十年、八十年生きてきた。折角、市の広報に出ていても、むずかしいところは飛ばして読んで…。そこで言います。ビオトープとは？「うん、タンボのこと」と。「あゝたんぼかの…」会長が目尻を下げる筈です。

7. 会よりの連絡事項

カブトムシの家ができたよ！！

6月2・9日にカブトムシの家を作りました。二俣瀬区木田の上田直樹さんはシイタケの菌床栽培をされており、古くなった菌床を田に積んでいたら、沢山のカブトムシが毎年発生するとのことで、幼虫を約30匹持って来られました。カブトムシの家は看板を立て、腐葉土を入れ、ヨシで屋根を作り、さっそく新築の家に幼虫をお迎えしました。

いまいちど気を引き締めて！！

ビオトープの作成にあたっては、あつてはならないことですが、もしケガなどした場合にそなえて保険がかけてあります。今までにあった事例を上げてみます。十分気をつけて作成にあたりましょう。

水車の製作中、低い足場から転落（軽度のケガ）

集めた水ゴケの中にマムシが入り込み、会員がそれを知らず、手で水ゴケごとマムシをつかんだ。幸い、噛まれなかった。

休憩中、一輪車の上に座っていて、バランスをくずし、一輪車もろとも須賀河内川に転落（すり傷程度）

宇部市役所の東の入口付近（環境共生課）に6月いっぱいまで里山ビオトープ二俣瀬の造成中の写真が掲示されています。

田植えは梅雨にもかかわらず、快晴に恵まれました。昔ながらのすげがさ・みのをつけた、下山中の後藤彦二さんと環境共生課の古川さんが、まず田植えのお手本をしました。古川さんは実は初めての田植えで、見物人から「ああやれ、こうやれ」といわれ、そのたびに見物人からドーッと歓声が上がっていました。特に原田蘭子さんや秋吉綾枝さん等の「迫力ある指導」に古川さんはノックアウト寸前でした。その後、小学生とボランティアが綱を引っ張って目印の所に苗を植えていき、事故もなく無事終了しました。こんなにスムーズにいったのも、会員の林弘之さんや原田賢治さんに肥料まきやトラクターでの代かきを事前にやってもらったり、会長から肥料を寄付してもらったりのお蔭です。余った苗を大村美智子さんがプランターで育てると、少し持って帰られました。豊作を祈っています。秋の収穫やモチつきが楽しみです。つきたてのお餅を醤油につけて食べたら最高です。

8. 編集後記

公園や市民センターには、クスノキが沢山植えてあります（ちなみに宇部市の市木はクスノキです。）。樟脳の原料になるそうで、虫も寄り付かず手入れが簡単なためでしょうが、緑があれば手が掛からない方が良いでは、あまりにも情けない思いをするのは私だけでしょうか。私達のビオトープも今後維持管理には何かと手が掛かるでしょうが、数年先のイメージを描いて必要なところにはどしどし手を加えていきましょう。（西原 一誠 記）

会報の編集は、原田満洲夫さん、前田歳朗さん、松本フデ子さん、事務局の塩谷さんと私（西原）の5名で行っていきます。編集委員に参加希望される方は申し出てください。

里山ビオトープ二俣瀬 会報第2号(写真1/2)



6月16日 田植え



6月16日 田植え



6月16日 田植え



6月16日 かぶと虫の世話



6月16日 田植え

里山ビオトープ二俣瀬 会報第2号(写真2/2)



6月16日 竹の水鉄砲作り



6月16日 魚取り